

令和 7 年度 教育委員会 X 方針について

■ 局区 X 方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・ 局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・ 局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・ 外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜 X 方針を修正する。

■ 教育委員会 X 方針について

(1) 課題数 全 10 件

課題領域	A レベル	B レベル	C レベル
課題数	4 件	5 件	1 件
政策分野	業務改善 教育環境（ソフト）	業務改善 教育環境（ソフト） 教育環境（ハード）	局全体

A レベル・・・行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・C レベル・・・政策的な変革課題

（C はより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等）

(2) 主な課題・取組内容等

・課題 A 市立高等学校におけるスマートフォンの導入による校内連絡体制の見直しと最適化（資料 1 P 12）

- 教室内にインターフォンがなく、緊急時の即時連絡が困難。現状、職員室との連絡は、口頭やチャットツールによるものだが、時間的ロスや情報伝達の不確実性がある。
- そのため、R 7 年度については、以下の取組を行う。
 - ・各教室及び職員室に Wi-Fi モデルのスマートフォンを整備し、内線化して校内の連絡体制を整備する。

・課題 B 学校体育館への空調整備の検討（資料 1 P 15）

- 児童・生徒の教育環境の改善及び避難所の環境改善のため、学校体育館へのエアコン設置を検討する必要がある。
- そのため、R 7 年度については、以下の取組を行う。

- ・他都市での取り組み事例を収集するとともに、既存体育館の情報を整理する。
- ・関連部局との協議を進め、整備方針案を検討する。

・課題B 学びの多様化学校開校による不登校対策の更なる充実（資料1 P16）

- 不登校生徒にとっての新たな学びの選択肢となる学びの多様化学校について、他の不登校支援施策との連携や機能の整理を図りつつ、着実に整備を進める必要がある。
- そのため、R7年度については、以下の取組を行う。
 - ・学識経験者や学校関係者等からなる検討会議を開催し、教育課程、人員配置、学習環境等について、より専門的な知見を踏まえた意見を聴取する。
 - ・教育センターの一部改修に係る基本・実施設計委託や既存の壁・棚等の撤去工事を行う。

・課題C 新たな時代の教育デザインの構築（資料1 P19）

- 社会の変化が激しく不透明な時代を生きていくこどもたちにとって、従来の一斉授業から脱却した、新たな学び（探究・STEAM・グローバル・DXなど）が必要となる。
- また、地球温暖化、少子化、学校の老朽化も進む中、学校の持続可能性や、こどもの安全・安心を確保し続ける必要がある。
- そこで、時代が求める学びの場にアップデートした小中一貫校として、新たな学校をつくることで、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の実現を目指す「みらい教育デザイン案」を本年1月の総合教育会議で提示した。令和7年度は、その具体化に向け、教育委員会内で検討を進めている。